

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)  
事業期間を通じた評価

国立大学法人神戸大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)の事業期間を通じた評価について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり評価結果をお示しします。  
あわせて、本検討会の所見についても別紙のとおりお示しします。

記

B	概ね当初の構想に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。
---	--

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)の  
事業期間を通じた評価

国立大学法人 神戸大学

(検討会の所見)

- 国立大学経営改革促進事業が要請している全ての要件に対して、「知」「人材」「資金」が循環するイノベーション・エコシステムの形成を目指して設定し、しっかりした成果を上げている。KPI に関しても、多くの事項に関して達成している。  
博士後期課程の学生への支援に関しても様々な工夫がなされており、神戸大学だけの課題ではないが、学位取得後の自大学におけるポストの充実だけではなく、我が国の社会における博士の学位取得者に対する就職、評価面での意識改革や文化の醸成につながる活動も期待したい。それがないと、この問題の本質的な解決には至らないであろう。  
教員の教育研究活動などの総合評価に関する指標が細かく設定されており、評価の客観性・透明性は確保されているが、それが教員の真に独創的な活動、特に研究面での活動を萎縮させないよう配慮する必要があるだろう。
- 着実に経営改革は進んでいるが、「厳格な教育・研究事業の評価」が教員の近視眼化を招かないか、イノベーション・エコシステムの形成に非常に重点を置いた研究・教育が大学をどこに導いていくのかに懸念が残る。
- 様々な取り組みを進めていることは評価するが、神戸大学の特徴を活かした明確な将来ビジョン(戦略)を示したうえで、戦術を組み立てる必要があるのではなかろうか。
- 神戸大学を地域の基盤的研究大学に成長させて行くには、資金面でのさらなる努力が必要ではないか。外部資金の獲得額や学長裁量経費が目標を達成しているとはいうものの、その増加率は決して大きくなく、トップ 10%論文や国際共著論文、若手教員比率などの指標が目標を達成していないことは大きな課題ではないか。特に、バイオ・ベンチャーの投資獲得の落ち込みは、コロナ禍の環境を考慮しても、どのように考えれば良いのか理解が難しい。神戸医療産業都市を身近に持つ研究大学としては、今後の大学経営上のさらなる努力が求められるのではないか。
- プロジェクトは順調に推移しているが、まだ形式的な組織改革のように感じる。時間の経過とともにさらなる結果が出ることを期待する。

次項あり

- 経営企画室や戦略的事業評価専門委員会、予算委員会といった、全学レベルでの経営改革のための組織的な枠組みが整いつつあるが、それが実際の研究や教育面での成果につながるまでには至っていないように見受けられる。組織的な枠組みを整えれば、ないしは、時間さえかければ成果を生み出せる、というものでもないのではないかと。今後は、そうした新たな改革の枠組みのもとで、全学の知恵を結集しつつ、具体的にどのような分野に注力するのか、新たにどのような分野に取り組むのか、といった点を見出し、具体的な成果目標を掲げつつ取り組むことが求められる。
  
- 数理データサイエンス、ライフサイエンス部門などの研究成果ばかりが強調され、教学マネジメントについては博士支援、イノベーション指向に特化されている。異分野共創についても、より具体的にどのような分野の共創を目指すのか、特に人文社会科学系の位置付けを明確にする必要がある。DX、バイオに偏った展開でよいのだろうか。